

第2章 交流・にぎわい

方向性

- 歴史や伝統、芸術、スポーツなどを通して、地域への誇りや愛着を持つ取組を進め、市民の文化やスポーツ活動を振興することにより、心豊かな市民生活の充実を図ります。さらに、その豊かさをみんなが共有して都市の魅力を高め、情報発信することにより、多くの人が行き交い、交流する拠点都市づくりを進めます。
- 本市の豊かな自然の恵みや歴史的な魅力など、多様な地域の観光資源を活かした観光振興を図ります。さらに、戦略的なプロモーションにより地域の魅力を発信し、多様な交流を創出します。
- 人々が海を身近に感じることができ「日本を代表するウォーターフロントシティ」となるため、周囲の観光資源等と一体となった、さらなるにぎわい空間を創出します。また、訪日外国人等にも優しい快適で利便性の高いみなどとして、毎日、市民や観光客であふれ、人々が憩うみなどづくりを目指します。
- 姉妹・友好都市との交流を核とした国際交流を促進するとともに、国際化に対応できる人材の育成を図ります。
- 少子高齢化による人口減少が加速する中、関係人口の増加が重要であることから、本市との接点・関係性を築くための取組を進めます。

第1節 文化・スポーツの振興

第2節 観光・レクリエーションの振興

第3節 みなとのにぎわいの創出

第4節 連携・交流の推進

ゴール目標【KGI】		基準値		目標値	
		年		R11年	R16年
観光消費額(地域外からの外貨獲得)	億円	R5	578.2	928.2	
市民雇用者1人当たりの報酬	千円/人	直近7年間の 平均値	3,689	4,300	5,000
企業所得額	億円	直近7年間の 平均値	2,489	2,860	2,950
生涯学習や地域イベントへの参加、地域貢献活動など、交流やコミュニケーションの機会が充実し、社会参画・参加しやすいと感じる市民の割合	%	R6	14.2	20.0	34.0

第1節 文化・スポーツの振興



現状と課題

- 古くから幾度となく歴史の転換期の重要な舞台となってきた本市には、先人を偲び、誇りとする、様々な祭りや行事、文献などが大切に守り伝えられ、関門海峡をはじめとした美しい景観や長い年月に培われた風土の中で、多くの文化人が輩出されています。スポーツ面においても全国規模、世界規模で郷土出身選手が活躍しており、余暇時間の増加や生活様式の変化とあいまって、文化活動やスポーツ活動を通じた健康づくりや生きがいづくりへの関心が高まっています。
- 多様な文化活動やスポーツ活動が市民に広がりを見せている中、活動の場の提供や指導者等の育成とともに、本市の魅力や事業・施策を情報発信し、各種イベント等の開催を通じて、地域の活性化や市内外の交流人口の拡大につなげていくことが期待されています。市内における芸術文化やスポーツ施設の中には、建物や設備の老朽化が進んでいるものもあり、施設の安全性、利便性、効率的な使用について検証し、市民がより一層主体的に文化活動やスポーツ活動に親しめるような環境づくりに取り組んでいく必要があります。
- 先人の営みの中で生まれ、大切に守り伝えられてきた文化財は、明日を生きる私達の指針となるものです。本市は全国屈指の豊かな自然遺産と歴史遺産を有し、これらを活かしたまちづくりは、こども達をはじめ、市民の郷土に対する愛着を育むとともに、都市の魅力を高め、文化財観光による交流人口の拡大にもつながります。しかし、過疎化、少子高齢化を背景とした地域構造や市民意識の変化は、伝統的な祭りや行事等の民俗文化財の催行が困難となるなど、文化財の保存と継承において、これまでにない、深刻な課題をもたらしつつあります。このため、本市が誇る多種多様な文化財の保護に一層努め、本質的な価値を守り、その意義を伝承していくとともに、文化財を活用した新たな施策を展開する必要があります。

取組の方向

(1) 芸術文化活動の推進及び環境の整備・充実

① 芸術文化活動の推進

市民の主体的な芸術文化活動に対する支援や本市にゆかりのある先人の顕彰、優れた芸術文化の鑑賞機会の充実を図るとともに、市民参加型のイベントの開催、市民が身近に芸術文化に触れることができる機会を創出します。また、子ども達の多様なニーズに応える芸術文化環境を構築するとともに、全国大会等の出場に係る支援を行うほか、学校や地域等での芸術文化体験等を通じた次世代の育成を推進します。

主な取組

- 芸術文化活動の促進・支援
- 本市にゆかりのある先人の顕彰・情報発信【顕彰館での所蔵品展や特別展の開催、その他イベント情報等の発信】
- 優れた芸術文化の情報発信や鑑賞機会の充実
- 中学校文化部活動の地域移行・連携の推進

② 芸術文化活動による国際交流

歴史・芸術文化を活かした地域の活性化を図るため、朝鮮通信使行列再現等の姉妹・友好都市と市民をつなぐ国際文化交流を推進します。

主な取組

- 市民参加型国際文化交流イベント等の開催

③ 芸術文化活動の拠点施設等の整備・充実と情報の発信

芸術文化活動の拠点的役割を担う市民会館や博物館機能を兼ね備えた近代先人顕彰館のほか、社会教育施設である生涯学習プラザや菊川ふれあい会館等の施設について、長寿命化に向けた施設の整備更新等を実施し、機能の充実を図るとともに、市民ニーズも踏まえ適切な管理・情報発信により、施設の利用を促進します。

主な取組

- 芸術文化活動の拠点施設等の適切な管理と情報発信

(2) スポーツ活動の促進及び環境の整備・充実

① 誰もが参画できるスポーツの推進

市民一人ひとりのライフステージに応じて、市民の誰もが参加できる教室やイベント等を開催し、あらゆる世代における参加機会を創出します。また、誰もが支え合い、認め合える共生社会の実現に向けて、障害の有無や年齢等にかかわらず、誰もがどこでも気軽にスポーツを楽しむ環境づくりを推進します。

主な取組

- ライフステージに応じたスポーツの推進
- スポーツを通じた共生社会づくりの推進
- 中学校運動部活動の地域移行・連携の推進

② 多様化するニーズに応えるスポーツ環境の構築

競技力の向上やレクリエーション志向、またマルチにスポーツ種目が体験できるなど、子ども達の多様なニーズに応えるスポーツ環境を構築するとともに、大会の開催や全国大会等の出場に係る支援を行うほか、教室等を通じてジュニア世代がトップレベルの選手に触れる機会を創出します。

主な取組

- ニーズに応じた新たなスポーツ環境の構築
- 競技力向上に向けた支援

取組の方向

③ 下関市総合体育館による交流促進

スポーツを通じて交流を生み出す体育館として新設した下関市総合体育館については、子ども達のトップアスリートへの夢を育み、「みるスポーツ」の魅力向上を図るためにトップレベルの大会等を積極的に招致します。また、スポーツのみならず多彩なエンターテインメントを展開する交流拠点施設として、交流人口の拡大を目指します。

主な取組

- トップスポーツ大会の招致
- エンターテインメントイベントの充実

④ 魅力と安心を備えるスポーツ施設等の充実と情報の発信

スポーツ活動の拠点施設である下関市総合体育館のほか、既存施設の適切な管理・情報発信により、施設の利用を促進します。また、スポーツ施設を補完するため、学校体育施設や民間スポーツ施設を有効活用するほか、LED照明等、環境に配慮した設備の導入を進めます。

主な取組

- 魅力ある施設・設備の充実と情報の発信
- 安全・安心を確保したスポーツ環境の整備

⑤ にぎわいと交流を生み出すスポーツの魅力向上とまちづくりの推進

トップスポーツの招致や下関海響マラソンのさらなる魅力向上によりにぎわいを創出するとともに、スポーツ合宿の積極的な誘致により交流の促進を図ります。また、アウトドアスポーツ等のスポーツツーリズムのほか、まちなかにおけるスポーツ機会の創出やスポーツを通じた地域コミュニティづくりを推進します。

主な取組

- スポーツイベントの魅力向上と交流の拡大
- スポーツを通じたまちづくりの推進



下関海響マラソン

主な取組

- 多様な地域文化財の状況把握
- 計画的な文化財保護・活用の推進
- 日本遺産を含めたまちづくりにおける文化財の活用

(3) 文化財の保護活動の推進

① 歴史的・文化的資源を活かしたまちづくり

指定時と大きく環境が変化した指定文化財の管理状況を適切に把握し、所有者に対する支援を行うとともに、指定文化財の確実な保存に努めます。また、未指定文化財を調査し、その所在や状況を把握するとともに、指定、種別等にかかわらず、地域の視点から豊富に存在する文化財を幅広く捉え直し、市民と一体となって、適切な文化財の保護と活用を計画的に推進します。また、北九州市と連携し、認定された日本遺産の魅力をより高める取組を継続的に行い、まちづくりや観光と連動した活用を図るとともに、官民が一体となって、関門地域の魅力を国内外に積極的に発信し、誘客に寄与する各種の活動を展開します。

取組の方向

② 文化財の整備・活用の推進

市民との共有の文化遺産である本市固有の貴重な文化財を守り、後世に伝えるため、天然記念物川棚のクスの森などの自然遺産の保護や、有形文化財の公有化等に取り組むとともに、長州藩下関前田台場跡、綾羅木郷遺跡、梶栗浜遺跡、仁馬山古墳などの未整備史跡の整備・公開・活用を推進します。

〈目標指標〉

目標指標	単位	基準値		目標値	
		年		R11年	R16年
観光客数/宿泊客数	千人	R5	5,718/789	10,000/1,000	
市民1人当たりのスポーツ施設年間利用回数	回	R5	4.6	7.9	8.5

主な取組

- 未整備史跡等の整備・公開・活用
- 自然遺産の保護・活用促進



朝鮮通信使行列再現



下関市総合体育館



インクルーシブスポーツフェスタ



ノジマTリーグ公式戦



ツール・ド・しものせき



エンターテインメントイベント



日本遺産 関門“ノスタルジック”海峡
下関南部町郵便局と旧秋田商会ビル(構成文化財)



国指定天然記念物「川棚のクスの森」

〈関連個別計画〉

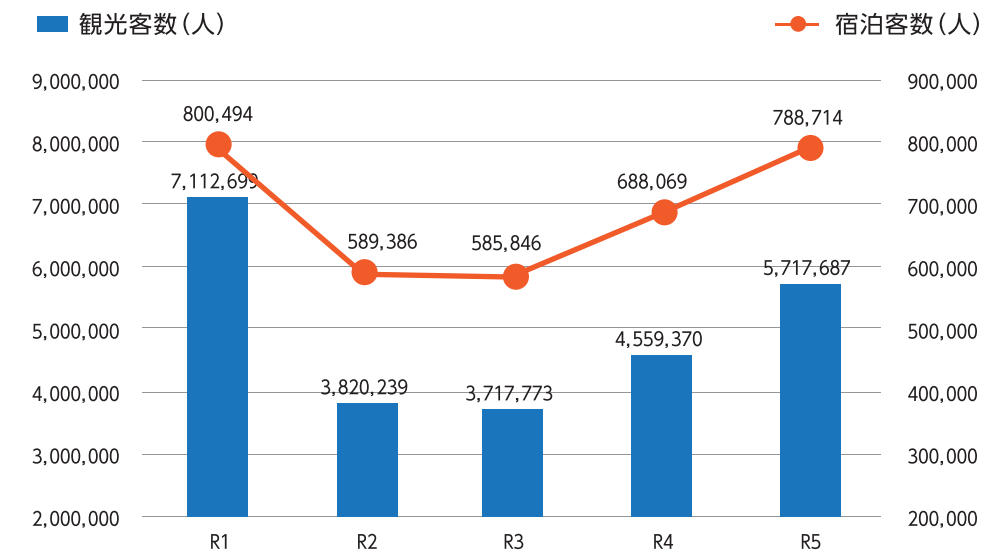
- 下関市スポーツ推進計画 令和6(2024)～令和10(2028)年度
- 下関市教育振興基本計画(下関市教育大綱) 令和7(2025)～令和11(2029)年度
- 下関市観光交流ビジョン 令和7(2025)～令和11(2029)年度



現状と課題

- 本市は、関門海峡をはじめとする海、山、温泉などの自然や、ふくに代表される美味しい食材、先人が織りなしてきた歴史・文化等、多種多様で豊富な観光資源を有する県下有数の観光都市です。観光は、幅広い産業に波及する総合産業として地域の経済に大きな影響を与え、結果として定住人口の拡大にまで効果が及ぶ可能性がある主要な産業です。全国的に定住人口の拡大が容易に望めない中、本市においても観光客増加による交流人口の拡大や、観光地としての魅力向上を図ることは大変重要です。
- このため、国内外からの観光客や宿泊客をさらに増加させるため、本市の中長期的な新たな「下関市観光交流ビジョン」を策定し、多様化する観光客のニーズに的確に対応し、本市への誘客をさらに推し進めることや、観光客の消費行動の「モノ」消費から「コト」消費、そして「トキ」消費など時代による変化に対応することが重要です。観光客の形態やニーズの変化に柔軟に対応しながら、多彩な切り口からの観光プラン提案や観光資源の磨き上げによる本市観光の魅力向上をはじめ、観光資源のネットワーク化、心のこもったおもてなし、観光情報の充実等、官民一体となって着実に取り組んでいく必要があります。
- 地域や関係事業者と連携を図り、DXの推進により、観光客に対する利便性の向上による消費機会の拡大、観光地経営の高度化、情報管理の高度化による観光産業の生産性向上、それらを支える観光デジタル人材の育成・活用の観点を踏まえ取り組んでいく必要があります。
- また、健全なレジャー施設として長年親しまれているボートレース下関については、ボートレースファンのみならず、広く市民にも親しみを持って利用していただけるよう施設やサービスの充実を図っていく必要があります。

観光客数・宿泊客数の推移



しものせき海峡まつり(上臈参拜)



関門海峡花火大会



角島大橋



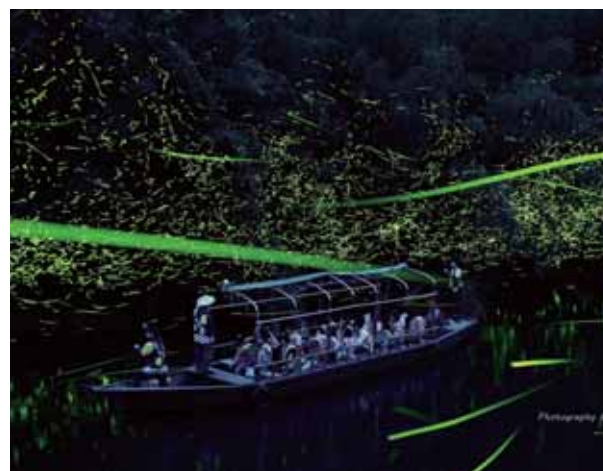
豊浦コスモスまつり



道の駅「北浦街道 豊北」



菊川夏まつり花火大会

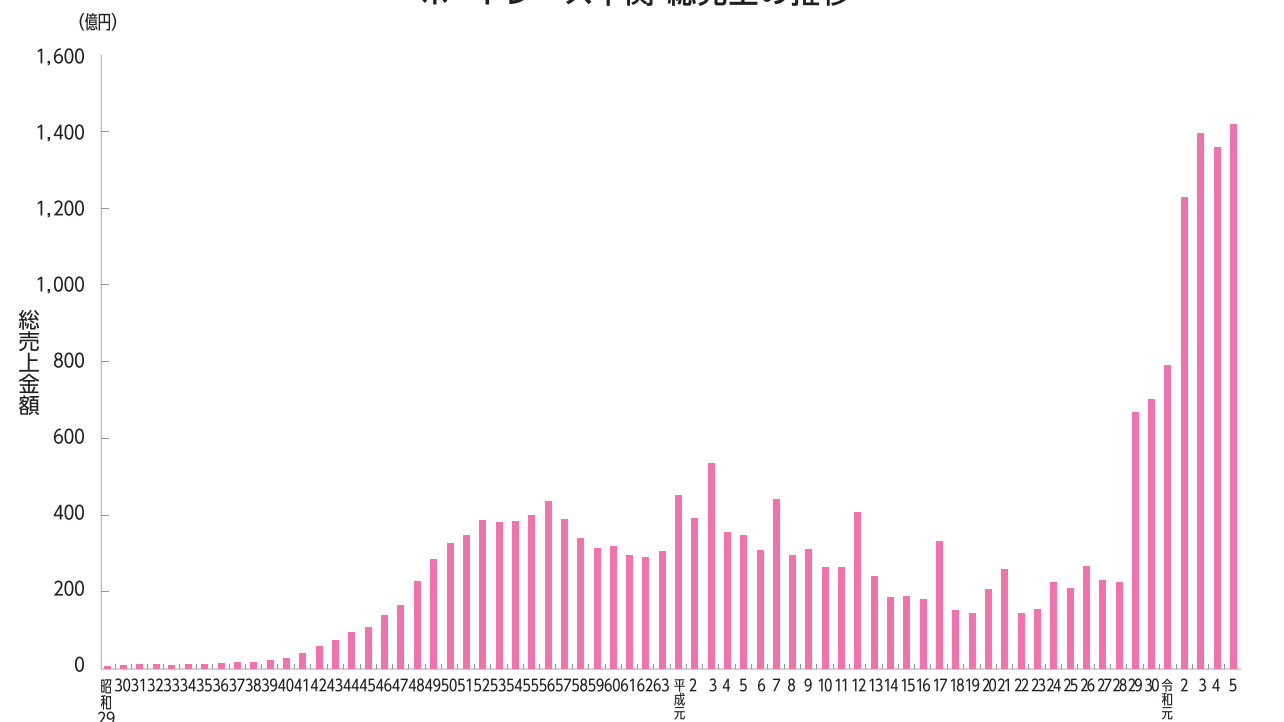


ホタル舟(豊田のホタル祭り)



BR下関 リニューアル事業(パース)

ボートレース下関 総売上の推移



取組の方向

(1) にぎわい観光都市づくり

① 潜在する観光資源の活用

三大祭りをはじめとする地域の祭り・イベントのほか、自然豊かなフィールドを満喫できるアクティビティや、歴史や伝統に触れ、食を楽しむなど、地域に潜在する観光資源を活かした、体験・体感できる観光コンテンツを創出し、本市ならではのツーリズムを推進することにより、誘客拡大、滞在時間延長を図り、地域経済の活性化と地域社会の発展を促進します。

主な取組

- 観光向けイベント・まつりの充実
- 観光コンテンツの創出

② 戦略的プロモーションの実施

観光客のニーズが多様化する中、本市の観光スポットや自然、歴史、伝統、食などの魅力を認知させ、さらに興味関心を高める取組として、WebサイトやSNSなど、多様なデジタルツールを活用し、観光客の行動時期(旅マエ、旅ナカ、旅アト)に合った戦略的プロモーションを実施することにより、新たな観光客の獲得につなげます。

主な取組

- 旅マエ、旅ナカ、旅アトにおけるデジタルツールを活用したプロモーション

③ MICE等の誘致

MICE(マイス)は地域経済や観光振興において極めて重要な施策の一つであることから、官民協働で誘致を積極的に推進し、交流人口の拡大による地域産業の振興、ブランド価値の向上を図ります。

また、下関フィルム・コミッションによる地域の自然景観や歴史、文化等の資源を活用した映像作品の撮影支援を行い、地域の魅力発信による観光客の誘致や地域経済の活性化を図ります。

主な取組

- MICE誘致の充実・強化
- 映像作品の撮影支援

(2) 観光資源の充実

① 火の山地区観光施設の再編整備

中心市街地に近く、関門海峡を一望でき、緑豊かな大規模公園として高いポテンシャルを有している火の山地区の眺望や自然を活かした体験型観光など、本市になかった新たな魅力づくりに取り組みます。新たな火の山地区の観光施設は、山頂部の展望デッキやイベント広場、アスレチック、キャンプ場など、これまで以上に海峡の魅力をゆっくり味わえる場所として、また、未来を担うこどもとその親世代の遊び・学びの場所として整備を進めます。さらに、関門エリアとの一体的な交流を図るための移動施設の整備やライトアップなど、「火の山を光の山に。老若男女の市民・旅人から愛される場所に」を目指し、再編整備を推進します。

主な取組

- 火の山地区観光施設の再編整備

取組の方向

② その他主要な観光施設の整備

主要な観光資源である海響館においては、安定した来館者数を確保するために新たな魅力づくりや定期的な展示更新を行うとともに、長府庭園、毛利邸等の観光施設も含めて、来場者の安全性向上を目的とした施設改修等を行い、継続的な魅力づくりを図ります。

また、菊川地域の「道の駅きくがわ」のリニューアルをはじめ、豊田地域の「道の駅栄街道西ノ市」、豊浦地域の「川棚温泉交流センター」、豊北地域の「道の駅北浦街道豊北」等の観光施設の改修等を行い、地域資源を活かした観光振興・地域振興の拡充を図ります。

主な取組

- 海響館の改修、展示リニューアル
- その他既存観光施設の改修、機能向上

③ 二次交通の充実

自動車ではない一次交通で訪れた観光客が地域を周遊できるように、二次交通を充実させていくことは重要です。一方で、観光客のニーズを把握し、需要及び実情に応じた対策を講ずることが求められます。レンタカーの利用促進をはじめ、宿泊施設による送迎バスの共同運行や観光客が利用できる循環バスのほか、ライドシェアをはじめとした新たな交通手段などの検討を官民連携により進めます。また、観光列車や観光地を回遊できる路線バスなど、移動自体を観光の魅力として付加する取組を進めます。

主な取組

- 官民連携によるあらゆる交通手段を活用した新たな移動手段の構築

(3) 外国人観光客の誘致

① ニーズに即したコンテンツの造成

訪日外国人消費動向調査では、「日本食を食べること」、「歴史・伝統文化体験」、「温泉入浴」、「自然・景勝地観光」などの体験を訪問先の観光地に求めている傾向が強いことから、本市が潜在的に持つ自然、歴史、文化、食などの観光資源に体験等を加えた付加価値の高い新たな観光コンテンツを造成します。

主な取組

- 外国人観光客に向けた体験型観光コンテンツ等の造成

② 多面的なプロモーションの展開

外国人観光客の多くが利用する観光メディア、Webサイト、SNSを活用し、国や旅行スタイルに応じたニーズや行動特性に対応する多面的なプロモーションを展開し、旅マエや旅ナカを中心とした情報の発信により、新たな外国人観光客の獲得を目指します。また、国内外での商談会や観光展へ積極的に参加し、最新の観光情報を提供することにより、本市への旅行商品の造成を促進します。

主な取組

- 旅マエ、旅ナカ、旅アトにおけるデジタルツールを活用したプロモーション(再掲)
- 商談会・観光展への参加

取組の方向

〈目標指標〉

目標指標	単位	基準値		目標値	
		年		R11年	R16年
観光客数/宿泊客数	千人	R5	5,718/789	10,000/1,000	

③ 受入環境の整備

外国人観光客を本市へ呼び込み円滑に市内を観光できるような案内やWebサイト、交通機関、店舗などの環境について、官民が連携して多言語化等を推進します。また、おもてなしインバウンドサービスの一環として、語学ボランティア等の人材育成に努めます。

主な取組

- 官民連携による多言語化等の推進

④ 広域での魅力発信・プロモーション

世界的にインバウンドが急速に回復する状況下において、西日本・九州が一体となり、それぞれの地域の魅力の発信・プロモーションの取組により、誘客を図ることを目的に設立された「西のゴールデンルート」の枠組を活用して、本市特有の観光資源の魅力を積極的に発信することで、外国人観光客から立ち寄りしたい観光地として選ばれることを目指します。

主な取組

- 「西のゴールデンルート」による魅力発信・プロモーションの強化

(4) ボートレース事業の振興

① 売上の確保

ナイターレースを継続して開催するとともにミッドナイトボートレースも開催し、電話(インターネット)投票の売上促進を図るなど広域発売の拡充に努め、売上の確保を目指します。

主な取組

- 広域発売の拡充

② 積極的な経営

多様化する価値観に的確に対応し、様々なお客様により楽しんでもらえるようサービスを充実させ、ボートレース下関のファン拡大を図るなど、積極的な経営戦略を展開します。
一方で、施設規模の適正化(コンパクト化)に留意しつつ施設全体の改修を進めるなど、経営の効率化にも努めます。

主な取組

- ファンサービスの充実
- 施設の大規模改修

③ 地域への貢献

ボートレースパーク化を進め、ボートレースファンだけでなくそれ以外の方々や観光客から、「日本一『行ってみたい!』ボートレース場」と認知されることを目指すことで、地域の活性化のみならず、新規ファンの獲得へもつなげます。
また、地域に開かれた施設として広く住民に利活用してもらうことで、地域との共生を図ります。

主な取組

- リニューアル事業の推進

〈関連個別計画〉 ○下関市観光交流ビジョン 令和7(2025)～令和11(2029)年度



現状と課題

- 本市の中心市街地に隣接する岬之町地区から唐戸地区の関門海峡に臨むウォーターフロントは、絶好の景観や、歴史、文化、食などの観光資源を複合的に備えることから、それらの資源や魅力の体験価値を活用して付加価値を高め、日中から夜間まで年中を通して、市民や国内外からの観光客に親しまれる場として、地域の振興と発展を支えるみなとづくりが期待されています。
- 関門海峡を間近に臨み、水際線に多様な船の往来等の景観を楽しむことができる下関駅周辺からウォーターフロント地区において、遊歩道や歩道が途切れている区間が存在しているため、みなとまちとしての魅力が十分に活かせていないことから、一体的なにぎわいの創出を図るために回遊性の向上が必要です。
- また、下関港は「国際旅客船拠点形成港湾」に指定されており、さらにクルーズ客船の寄港増加に向け、真に魅力的な寄港地としての機能向上を図るため、官民連携によるハード・ソフト両面の整備に向けた体制強化が求められています。
- 一方、外国人が利用者の多くを占める国際フェリーターミナルにおいては、施設の老朽化対策や受入環境の向上などにより、快適な施設環境を提供し、近年増加する訪日外国人の受入体制の充実が求められています。



新港地区(長州出島)クルーズ客船寄港の様子



クルーズ客船歓迎行事



あるかぼーと・唐戸エリアマスタープラン



ライトアップ



ナイトクルーズ

取組の方向

〈目標指標〉

目標指標		基準値		目標値	
		年		R11年	R16年
下関港外国人入国者数	人	R5	45,580	70,000	100,000
観光客数/宿泊客数	千人	R5	5,718/789	10,000/1,000	

(1) 人々が憩うみなとづくり

① あるかぼーと・唐戸エリアマスタープランの推進

海峡エリアの価値を最大限に高め、観光業を基幹産業として育て上げることを通じて、新たな投資の呼び込みや雇用の創出等を実現し、市民にとって「誇りに思えるまち」、観光客にとって「一度は行ってみたい／住んでみたい憧れのまち」というイメージを確立することで、市内からの人口流出に歯止めをかけるとともに、市外からの移住・定住を促していくことを目指します。

主な取組

- 公共空間の利活用の推進

② まちづくりと一体となったウォーターフロント開発

岬之町地区から唐戸地区においては、日本を代表するウォーターフロントを目指して、下関の歴史、文化、食の魅力を活かし、日中から夜間まで年中を通して、市民をはじめ来訪者が集うような開発に取り組みます。

また、周囲の観光資源等や既存施設を利活用し、みなとのにぎわいを創出します。

主な取組

- ウォーターフロント開発の推進
- 「みなと」を核としたまちづくりを進める「みなとオアシス下関」の活用
- 「釣り文化振興促進モデル港」の取組を通じたにぎわいの創出

③ 交流拠点間の人流動線の確立

下関駅や国際フェリーターミナルから唐戸地区への水際線において、遊歩道整備やモビリティ等の活用による各交流拠点間の連続した人流動線の確立を通じ、回遊性を向上させ、下関駅からウォーターフロントエリア一体のにぎわいの創出を図ります。

主な取組

- 回遊性向上方策の実施

④ クルーズ客船受入体制の充実

クルーズ客船の寄港数増加及び船型大型化に対応するべく、クルーズ客船寄港時に、乗船客の入出国手続きを快適かつスムーズに行うことができるよう、ハード・ソフト両面より受入体制の充実を図ります。

また、県内及び市内での回遊を促進するため、関係機関との連携を強化します。

主な取組

- クルーズ客船の誘致
- 国際クルーズ拠点の形成促進

⑤ 訪日外国人への利便性向上

国際フェリーターミナルの利便性向上を目的とした施設の運営形態の見直しによる港湾機能の拡大・強化を検討し、訪日外国人受入体制の充実を図ります。

また、鉄道駅との近接性を活かした人流動線を確保し、観光バス、送迎車両等の駐車場の確保を検討します。

主な取組

- 国際フェリーターミナルの機能向上

〈関連個別計画〉

- 下関海峡エリアビジョン 令和4(2022)年度～
- あるかぼーと・唐戸エリアマスタープラン 令和4(2022)～令和14(2032)年度頃
- 下関港長期構想 平成30(2018)年度～

- 下関港港湾計画 平成30(2018)年度～
- 下関港国際旅客船拠点形成計画 令和3(2021)年度～
- 下関市観光交流ビジョン 令和7(2025)～令和11(2029)年度



現状と課題

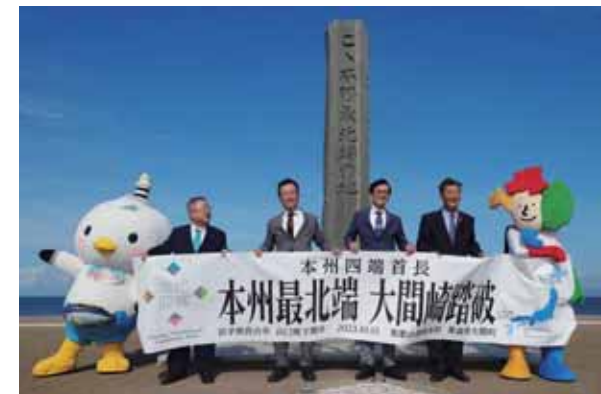
- 本市には、自然がもたらす豊かな恵み、先人が培ってきた歴史や文化など特徴的な資源が数多く存在します。これらまちの誇り、貴重な財産を活かし、各関係団体等と協力、連携を深め、活力ある地域づくりに磨きをかけて取り組むことが重要です。このため、引き続き市民の誰もが安心して暮らすことができるまちを末永く持続していくため、文化・スポーツや地域産業の振興、人材育成といった幅広い分野で連携し、まちづくりを進めていくことが重要です。
- 県内では、長州路観光連絡会において長門市・美祢市・萩市と、それぞれ広域での観光振興に取り組んでいるほか、長門市とは「くじら」という共通の地域資源を介して、食文化を中心とした様々な分野での連携を図っています。
- 県外では、隣接する北九州市とは関門海峡観光推進協議会を組織し、広域観光連携を推進しているほか、関門地域行政連絡会議を組織し、行政間の情報交換や連携事業を展開しています。また、日本遺産に認定された「関門“ノスタルジック”海峡」の歴史的資源を活用し観光客誘致に取り組むなど、本市の地理的特性、歴史や文化特性において、縁の深い国内他地域との交流にも積極的に取り組んでいます。
- 現在、本市はスマートシティを推進しており、先進他都市における取組の情報収集や都市間連携など、適宜適切に対応する必要があります。
- 様々な技術の進展によりグローバル化が進み、本市と諸外国とのつながりはますます深まっています。そのため、長きにわたり友情を培ってきた姉妹・友好都市をはじめ、交換派遣職員や国際交流研修員等により培われた相互ネットワークを活用しながら、様々な分野で国際交流を促進していく必要があります。
- そうした中、我が国や本市の歴史や文化を正しく理解した上で、国際的視野に立ち、諸外国の歴史や文化、言語を理解することができる、国際的なコミュニケーション能力等を持った人材の継続的な育成が必要とされています。
- 少子高齢化による人口減少が加速する中、定住人口の減少を抑制しつつ、多様な移住者を国内外から呼び込むほか、定住人口でも観光客等の交流人口でもない、地域と多様に関わる関係人口を重要視し、本市との接点・関係性を築く入口戦略が必要です。
- 人口減少社会の到来や急速な少子高齢化の進行により、様々な分野で都市間競争が厳しさを増す中で、本市が他都市と区別され「選ばれる都市」となるため、「都市のブランド化」の実現に向け、活気ある若者をはじめとした、市民が自ら住むまちへの「愛着や誇り」を高める取組を行います。そのためにも、本市の多種多様な資源一つひとつを包含する都市のイメージの向上とその周知のため、各分野が連携し、「オール下関」として一体感のある戦略的な情報発信をより一層行っていく必要があります。



関門トップ会談



本州最西端(昆沙ノ鼻)



本州四端首長交流会議



地域おこし協力隊(TipTie)



観光列車「〇〇のはなし」



小中学生海外派遣研修(中国・青島市)

取組の方向

(1) 連携の推進

① 広域観光連携の推進

関門海峡観光推進協議会や長州路観光連絡会等の活動を支援するなど、近隣都市と連携して観光振興施策を行い、相互補完による観光資源の魅力アップや滞在時間の延長、回遊性の向上による観光客の増加を図ります。

主な取組

- 県内各市や北九州市と連携した広域観光振興

② 行政間の連携

長門市等、県内の近隣自治体と連携し、地域振興及び行政サービスの向上に努めます。また、北九州市と設置している関門地域行政連絡会議等を通じて、市民交流・経済活動・教育文化活動・交通環境の連携等、関門地域の活性化に資する事業の検討、情報交換等を推進します。さらに、スマートシティ推進における先進他都市と都市間連携を行い、情報交換をはじめ、各種市民サービスの共有・連携を図ります。

主な取組

- 県内各市や北九州市、スマートシティ先進他都市との行政間連携

(2) 交流の促進

① 市内交流の促進

農山漁村の持つ優れた特性を活用し、海業(うみぎょう)等の振興により、都市部と周辺地域との交流を促進し、地域の活性化を目指します。

主な取組

- 都市・農山漁村交流の促進
- 漁業をもととする海業等の振興

② 他地域との交流の促進

広く国内他都市とのスポーツ・文化交流、児童・生徒の交流や歴史・文化・自然資源において縁のある都市との交流等を推進し、地域活性化を図ります。

主な取組

- 地域特性に応じた交流の促進

(3) 国際交流の促進

① 姉妹・友好都市等との国際交流

姉妹・友好都市締結に基づき、釜山広域市、山東省青島市との職員相互派遣を行うとともに、従来からの人的交流を中心とした市民交流に加え、経済、文化、観光等、様々な分野での相互都市間の活性化につながる国際交流の促進に取り組みます。

また、国際交流ボランティア制度を活用して、諸外国との相互理解や市民レベルの国際交流を促進します。

主な取組

- 姉妹・友好都市との交流促進

取組の方向

〈目標指標〉

目標指標		基準値		目標値	
		年		R11年	R16年
挑戦でき活躍しやすい環境が整っていると感じる若者の割合	%	R5	11.5	20.0	34.0
観光客数/宿泊客数	千人	R5	5,718/789	10,000/1,000	

② 国際化に対応した人材育成等

国際交流、諸外国との相互理解を促進し、国際感覚を醸成するため、青少年等海外派遣の拡充を図るとともに、国際化に対応した人材育成等を目的に国際親善交流を実施している市民団体等への支援に努め、市民レベルでの人材育成を促進します。

主な取組

- 青少年等の海外派遣
- 国際交流支援の充実

(4) 移住促進と関係人口創出

① 多様な移住者へのアプローチ

若い世代や大都市圏からの移住希望者が、地域の生活や暮らしを体験できるしくみや空間を公民で共創し、まちに関わりやすい環境を築くことで、UJIターンを促進するとともに、リモートワーカーなど、場所に捉われない働き方をする人を積極的に呼び込む施策を展開します。併せて、これらの多様な生き方が可能となる下関の都市イメージを、デジタル技術を活用しながら効果的に発信することで、本市へのさらなる移住定住を促進します。

主な取組

- まちに関わりを生む移住環境の創出とデジタル戦略による魅力発信

② 関係人口の創出

本市にゆかりのある人やふるさと納税の寄附者など、本市に興味関心や何らかの関係性を有する方に向けて、ニーズに沿った多様な交流の機会を提供し、「関係人口」の創出を図ります。

主な取組

- 認知度・魅力度・情報接触度の向上による、本市との関係性を構築

(5) シティプロモーションの推進

① 情報発信力の強化・戦略的な情報発信

行政だけでなく市民・事業者・市民団体等が一体となって情報発信力を強化し、「オール下関体制」により、本市の優れた資源など様々な魅力を一体感を持って発信し、都市全体の価値や魅力の向上を図り「都市ブランド」を構築し、持続可能なものとして定着化させ、これらを通じて市民の下関への「愛着・自信・誇り」が高まるよう取り組みます。

併せて、Webサイト・SNSなど様々な媒体を活用するほか、ターゲットを明確にするなど、効果的な情報発信を展開することにより、本市の都市ブランドイメージの浸透を図りながら、認知度や魅力度を高め、交流人口の拡大や定住促進等に貢献できるよう取り組みます。

主な取組

- 都市ブランドの構築及び認知度、魅力度の向上



下関市メインキャラクター「せきまる」

〈関連個別計画〉

- 下関市多文化共生・国際交流推進計画 令和3(2021)～令和12(2030)年度
- 下関市観光交流ビジョン 令和7(2025)～令和11(2029)年度